

背景・目的

市内農協が新規作物として検討している‘シャインマスカット’について、令和3年度の定植以降から越冬時の凍害による発芽不良が問題となっていることから、当地での栽培方法について検証しました。

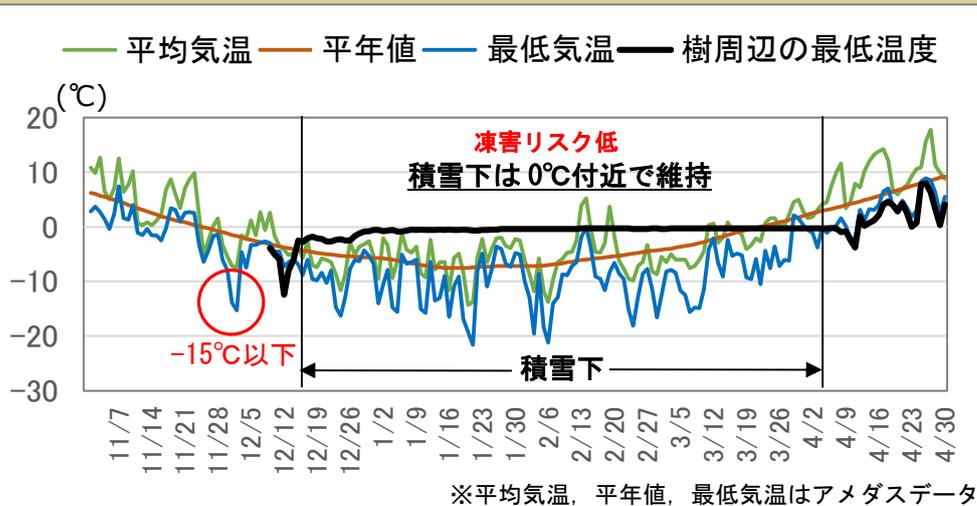


(圃場内の様子)

結果

凍害の原因

<R5. 11月～R6. 4月までの気温等の推移>



◆樹の防寒対策◆



樹を下ろしムシロで全体を被覆



人為的に雪を被せる

当地では防寒対策が必須

今回の凍害の原因

今年発生した発芽不良（枯死芽率平均70%）は、樹の防寒対策を施す前の12/1～12/2に記録した-15°C以下の低温によって生じた凍害と推測

今後の課題

樹が積雪下になるのは例年12月上旬となるため、11月下旬までに実施できる防寒対策について検討する

栽培スケジュール

作業名	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
天井ビニール展張	■							
開花		■						
花穂整形		■						
無核化(ジベレリン)		■ 1回目	■ 2回目					
摘粒			■					
袋かけ				■				
収穫						■		
冬期剪定						■ 天井ビニール撤去	■	■ 雪かけ

※無核化の安定化を図るため、開花直前の花穂にアグレプト液剤（200ppm）を散布
※白色と緑色の袋を比較した結果、白色に比べ緑色が果房の黄化が遅い傾向がありました。



～収穫物の品質（平均）～
*果房重 464 g
*果粒重 11 g
*糖度 18 Brix%

結果の活かし方

- ・11月下旬までに樹の防寒対策を施すことで、凍害の軽減が期待できます。
- ・袋かけは、緑色の袋を使用することで、果房の黄化を遅らせることができます。